

授業科目名	経済学入門（公・再履修）	担当教員名	藤井 美男				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	過去との対話を通じて学ぶ経済学「超」入門					
	本講義は、入学して間もない1年生を主たる対象として、ミクロ経済学やマクロ経済学あるいはそれらの応用編を学ぶ大前提としての基礎的な内容を軸に展開される。そもそも人間の経済的営みとは何か、という考察から始まり、現代経済社会の基本的特徴と意義の把握、それが形成されてくる背景と理由、経済「世界」を眺めるさまざまな視点、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的把握などが内容となる。					
到達目標	経済について一定の関心を持てるようになる。また、経済的現象について一定の考察をすることができるようになる。そして、経済的事実や経済学的用語などを必要な文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができるようになる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト	10	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）を全体評価の10％とする。（予定）			
	レポート					
	定期試験	90	定期試験の結果を全体評価の90％とする。（予定）			
	その他					
事前・事後学習	本講義は特定の教科書を定めず、事前に配布（配信）するPDFファイルの資料を用いるノート講義とする。事前にそれを読読して大まかな内容を把握しておく必要がある。そして、授業後はその内容を反復しつつ自分なりに整理することで、経済学に関する基礎知識を涵養することができる。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は使用しない。』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『授業の中で随時紹介する』					
備考	本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンド授業に変更することがある。講義資料のダウンロードや授業の詳細については、Googleclassroom等を通じて通知されるので、遺漏しないよう留意することが必要である。なお、授業の内容と進行についてシラバスに変更を加えることがある。その場合は授業中に説明する。					

授業の計画

1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、講義全体像の紹介（シラバス参照）
2	「経済」とはなにか	コロナ・パンデミックで露わとなった人間の「経済的営為」の本質
3	現代経済社会の特質とはなにか	資本主義社会の特徴をつかむ
4	市場型経済社会の成立過程（1）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（1）
5	市場型経済社会の成立過程（2）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（2）
6	経済的合理性とはなにか（1）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（1）
7	経済的合理性とはなにか（2）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（2）
8	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）実施	10点満点のミニテスト(あるいはミニ課題)を実施（予定）
9	様々な経済観（1）	アダム・スミスからウォーラステインまで（1）
10	様々な経済観（2）	アダム・スミスからウォーラステインまで（2）
11	経済学「超」入門（1）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（1）
12	経済学「超」入門（2）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（2）
13	経済学「超」入門（3）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（3）
14	経済学「超」入門（4）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（4）
15	全体のまとめ	本講義の全体的な整理と総括

授業科目名	公共マネジメント特講	担当教員名	砂原 雅夫				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この授業は2年次配当の公共マネジメント特講 において学ぶ地域について自ら課題を見つけ、自ら把握・調査・分析をし自らの考えをまとめるための基礎となる知識を得ることにあります。地方行財政の仕組み、下関市の地理、歴史や現況、地方公共団体である下関市役所の行政について実務面から理解を深めます。また、国勢調査や市町村民経済計算書、REASAS地域経済分析システムなどの行政データの使い方を学びつつ、データを利用して下関市の姿を把握します。さらに下関市を事例に地方都市の抱える課題を探るため、下関市のマスタープランをはじめ行政各分野の計画を概観します。
------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1, 地方行財政の仕組みについて基本的な事項について理解できる。 2 下関市の地理、歴史及び今日の下関市の状況を知り、大学生活を送る下関市の姿を語るようになる。 3 行政データ及び活用ができるようになる。簡単な経済分析ができる。 4 下関市を通じて地方都市の課題を知り、課題に対する自分の意見がもてる。 5 公共マネジメント特講（2年次配当）に取り組む基礎知識が身につく。
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	10	出席状況及び授業中の発言など
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	90	地方行政の仕組み、行政データの使い方の理解
	その他		

事前・事後学習	下関市の全体的な状況を把握するため、下関市の地図に目を通して主要な地名、主要な公共施設、道路や鉄道網、地形や人口密集地や集落の分布を把握しておいてください。Google Mapなどを利用するといいたと思います。このほか、下関市のホームページを閲覧し、主な市の政策を知っておくと理解が深まります。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『特になし』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	この授業は、行政機関での実務経験のある教員が行う授業です。
----	-------------------------------

授業の計画	
1	ガイダンス 授業のねらい、進め方について説明します。導入として都市経済学的アプローチから「都市」とは何かを考えていきます。
2	下関市の地理・歴史 下関市を知る背景となる下関市の地理。歴史について近現代を中心に理解します。特に市外出身の方にわかりやすく授業を行います。
3	地方行政の仕組み 下関市を事例に地方都市の行政の仕組みを理解します。
4	地方財政の仕組み 下関市を事例に地方都市の財政の仕組みを理解します。特に、地方財政を見るポイントを決算指標からみていきます。
5	下関市の現状と未来 下関市の現在の姿、未来にむけて取り組んでいることを下関市の行政担当者にお話しいただきます。
6	下関市の行政計画 下関市のマスタープランをはじめ、都市計画、福祉、環境、産業、教育文化、行政管理等の各分野の計画について理解します。(その1)
7	下関市の行政計画 下関市のマスタープランをはじめ、都市計画、福祉、環境、産業、教育文化、行政管理等の各分野の計画について理解します。(その2)
8	下関市の行政計画 下関市のマスタープランをはじめ、都市計画、福祉、環境、産業、教育文化、行政管理等の各分野の計画について理解します。(その3)
9	行政統計の使い方 国勢調査やREASAS地域経済分析システムなどを使って下関の人口の現況と推移、構造、他市町との人口の動きをデータで把握します。
10	行政統計の使い方 市町民経済計算報告書を利用して下関市のまちの経済力、経済成長力についてデータでみていきます。
11	行政統計の使い方 産業連関表を利用して地域の産業構造を知る手法を学びます。山口県の産業連関表を実地に読み解いていきます。
12	インタビュー調査・アンケート調査 インタビュー調査のポイント、アンケート調査の基本的な取り組み方を理解します。
13	簡単な統計的分析 インタビュー調査やアンケート調査から得たデータの分析の仕方を理解します。
14	地方公共団体の政策決定 地方自治体において行われる政策決定のプロセス、住民の意思の反映の仕方について下関市を事例に理解します。
15	まとめ 講義の振り返りと公共マネジメント特講 への橋渡しをします。

授業科目名	公共マネジメント特講 1組<公共マネジメント実習>	担当教員名	岸本 充弘				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>本授業は、公共マネジメント特講を受講後、地方自治体（下関市）における現場でのフィールドワークを通じて、行政課題や懸案事項等について学ぶとともに、フィールドワークの手順、現場での調査方法、調査結果の取りまとめ等について習得することを目的としています。そのため、実際の行政課題等についての担当者からの講話、事前学習で、フィールドワークの流れ、手法、取りまとめ方法等習得後、現場に出てフィールドワークを実施し、結果の取りまとめと成果報告について、各グループに分かれて行います。また、2つの課題についてのフィールドワーク結果を受けて、総合討論を行います。なお、フィールドワークの内容等については変更となる場合があります。</p>
------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 行政等の課題や懸案事項について把握できる。 フィールドワークの手法や流れ等について理解できる。 実際の現場でフィールドワークの実施ができ、その結果を成果として取りまとめができる。
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	60	授業への出席状況、フィールドワークへの参加状況等
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他	40	フィールドワークの成果報告書

事前・事後学習	
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『特に指定しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	この授業は、行政機関等での実務経験のある教員が行う授業です。
----	--------------------------------

授業の計画

1	ガイダンス (9/29 3限)	公共マネジメント特講全体ガイダンス、グループ分け
2	フィールドワークの説明(9/29 4限)	フィールドワークの目的、手順、進め方、報告等
3	事前調査 (10/6 3限)	フィールドワークA(駅前の賑わい創出事業)に向けての事前調査
4	事前調査発表 (10/6 4限)	フィールドワークAに向けての各グループ事前調査発表
5	フィールドワークA (10/13 3限)	現場でのフィールドワーク(下関市産業振興課担当者説明)
6	フィールドワークA (10/13 4限)	現場でのフィールドワーク(下関市産業振興課との質疑応答等)
7	成果報告・質疑応答 (10/20 3限)	フィールドワークAの成果報告・質疑応答(各グループ)
8	成果報告・質疑応答 (10/20 4限)	フィールドワークAの成果報告・質疑応答(各グループ)
9	事前調査 (10/27 3限)	フィールドワークB(文化財保護行政と日本遺産事業)に向けての事前調査
10	事前調査発表 (10/27 4限)	フィールドワークBに向けての各グループ事前調査発表
11	フィールドワークB (11/10 3限)	現場でのフィールドワーク(下関市教委文化財保護課担当者説明)
12	フィールドワークB (11/10 4限)	現場でのフィールドワーク(文化財保護課との質疑応答、考古博物館視察等)
13	成果報告・質疑応答 (11/17 3限)	フィールドワークBの成果報告・質疑応答(各グループ)
14	成果報告・質疑応答 (11/17 4限)	フィールドワークBの成果報告・質疑応答(各グループ)
15	まとめ (11/24 3限)	全体のまとめ

授業科目名	経営学入門	担当教員名	西田 郁子				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本講義では企業とは何か、経営学とは何か、われわれの社会や生活にどのように関係しているのかを考えます。「経営学」と聞いてみなさんは「経営者のための学問」、「お金儲けの学問」を連想するかもしれませんが、そのような側面もあるかもしれませんが、それだけではありません。経営学を学ぶことは世の中をより良きものとする術を会得することでもあります。そしてこれが学問としての経営学の本質なのです。マネジメント能力はどのような職業に就くにしても必要であり、ここに経営学を学ぶことの意義があるのです。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学の入門的な知識についてその内容を理解する。 ・企業の諸問題について関心を持つ。 ・サークルなど身近な組織の運営の諸問題に関心を持つ。 					
評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	70				
	その他	30	課題等の提出状況で評価します			
事前・事後学習	<p>事前学習として、下記のテキストの該当箇所を事前に熟読すること。 事後学習は、配布資料を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。</p>					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『現代の企業経営』	西田 安慶・林純子	三学出版	2021年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『ゼミナール経営学入門 第3版』	伊丹敬之・加護野忠男	日本経済新聞出版社	2018年		
備考						

授業の計画

1	ガイダンス	経営学の全体像
2	現代企業とその社会的役割	企業と社会
3	コーポレート・ガバナンス	企業の経営と統治
4	経営戦略（1）	経営理念と戦略
5	経営戦略（2）	競争戦略のマネジメント
6	経営戦略（3）	多角化戦略のマネジメント
7	経営組織（1）	経営組織の成立と分権・集権
8	経営組織（2）	人事管理と人事制度
9	経営組織（3）	モチベーションとリーダーシップ
10	マーケティング	マーケティングの基本戦略
11	生産管理	製品やサービスの開発と生産
12	国際経営	国際化のマネジメント
13	財務管理	資金の調達と運用
14	デジタル経営	デジタルが変える企業経営
15	アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップの社会的意義

授業科目名	マクロ経済学 (国・公)	担当教員名	磯谷 明德				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。</p> <p>なお、この「マクロ経済学」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学 (2年次春学期)」で講義されるのを注意して欲しい。</p> <p>(【経済学科学生への注意】：上で記述のように、マクロ経済学 は2年次春学期に開講される。マクロ経済学 に続いて、マクロ経済学 を連続して履修することを強く推奨する。)</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マクロ経済学の基本的な概念を理解する。 現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方をを用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。 マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	40	ミニッツペーパーの提出
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定
	レポート		
	定期試験	40	期末試験
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	
----	--

授業の計画

1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	なぜマクロ経済学は必要か	ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。
3	なぜマクロ経済学は必要か	第2回講義の続き
4	国民所得の測定	GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。
5	国民所得の決定 -1	消費関数と45度線分析（前編）
6	国民所得の決定 -2	消費関数と45度線分析（後編）
7	国民所得の決定 -1	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編）
8	国民所得の決定 -2	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編）
9	国民所得の決定 -1	乗数理論（前編）
10	国民所得の決定 -2	乗数理論（後編）
11	国民所得の決定 -1	投資関数：投資と利子（前編）
12	国民所得の決定 -2	投資関数：投資と利子（後編）
13	国民所得の決定 -1	利子と貨幣（前編）
14	国民所得の決定 -2	利子と貨幣（後編）
15	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析

授業科目名	ミクロ経済学（国・公）	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本講義ではミクロ経済学の基礎的な知識を学ぶ。ミクロ経済学には幅広いテーマがあるが、本講義では市場の理論を中心に学ぶ。消費者行動の分析、企業行動の分析、市場均衡といったトピックスを紹介し解説を行う。また、理論を応用して経済政策について考える。</p> <p>講義ではグラフを用いて解説するため、高校数学の関数とグラフについて復習しておくこと。</p>
------	---

到達目標	<p>事例や図解を通じて以下の点を理解することを目標とする。</p> <p>ミクロ経済の用語及び各テーマの概要を把握する。</p> <p>関連した図の解釈や曲線などの移動の条件がわかるようになる。</p> <p>ミクロ経済学の知識を用いて、現実事象の説明ができるようになる。</p>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	25	講義中に指示する
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	75	講義中に指示する
	その他		

事前・事後学習	<p>事前学習：講義資料を活用し、講義内容を把握してできるようにすること。</p> <p>事後学習：講義中の解説について内容をまとめる。また参考書等を活用し内容を検討する、 グラフの解説は文章化しておく、 計算例は計算過程を復習すること、 講義中に課題を提示するのでそれに取り組む。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	新聞や経済雑誌を読み、経済に触れておくことを推奨する。	
-------------	-----------------------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』	ティモシー・テイラー	かんき出版	2013

備考	
----	--

授業の計画

1	イントロダクション	ミクロ経済学はどのような学問か知る。
2	需要と供給	市場、需要及び供給の概念を理解する。
3	消費者行動(1)	需要の法則について知る。
4	消費者行動(2)	効用の概念を理解する。効用と消費者行動について考える。
5	消費者行動(3)	予算制約の概念を理解する。予算制約と消費者行動について考える。
6	価格弾力性	需要曲線の特徴を学ぶ。価格弾力性の考え方を説明できるようになる。
7	生産者行動(1)	供給の法則について知る。
8	生産者行動(2)	生産要素、費用について考える。
9	生産者行動(3)	供給曲線について学ぶ。
10	市場均衡(1)	市場均衡の概念を理解する。
11	市場均衡(2)	超過需要、超過供給からの均衡までの調整過程について学ぶ。
12	価格統制と規制	経済政策のひとつである価格の上限規制や、市場への規制の影響について考える。
13	市場の失敗(1)	外部性の概念を理解する。
14	市場の失敗(2)	公共財の概念を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容のまとめと補足を行う。

授業科目名	経済原論（国・公）	担当教員名	関野 秀明				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係に及ぼす肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビアな問題に取り組んで欲しいのです。
------	--

到達目標	貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する 剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する 成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する 資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する 利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論 マルクスのすすめ』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。
---------	--

事前受講を推奨する科目	経済学入門	
-------------	-------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新版資本論』	カール・マルクス	新日本出版社	2020年
	『変革の時代と資本論』	月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年
	『経済学辞典』		大月書店	

備考	対面授業を予定している。対面授業の継続が困難になった場合は以下の通り。遠隔授業はgoogle driveの資料で実施。学年暦、時間割に従い資料提供。Powerpoint資料を閲覧しWord、PDF資料に書き込む。
----	--

授業の計画

1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4 貨幣論1	交換過程論 貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段 蓄蔵貨幣 支払手段 世界貨幣
7	剰余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剰余価値論2	生産過程 絶対的剰余価値論
9	剰余価値論3	相対的剰余価値・特別剰余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積 資本主義の歴史的傾向

授業科目名	簿記原理（公・経）	担当教員名	足立 俊輔				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>企業は利益をあげるために様々な活動を行っていますが、そうした様々な企業活動を測定・評価するのが簿記・会計です。具体的には、「複式簿記」と呼ばれるものを用いて企業活動は仕訳され、仕訳された企業活動は貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に記載され一般に公開されています。本科目では、こうした複式簿記を用いて作成される財務諸表の基本構造が理解できるように講義を進めていきます。</p> <p>講義の前半ではプリントを配布し、それに沿った講義を行ないます。また、講義の後半では、問題を解く時間を設定し、実際に手を動かしながら理解を深めるようにしています。</p>					
到達目標	<p>本科目の到達目標は、日商簿記検定3級程度の知識・計算能力を身につけることです。具体的には、複式簿記の基本構造が理解できること、単純な企業活動を仕訳する能力を身につけること、仕訳された企業活動を損益計算書、貸借対照表に記入できることを目標にしています。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考			
	平常点	20				
	小テスト					
	レポート	10				
	定期試験	70				
	その他					
事前・事後学習	<p>テキストはいずれも最新版を購入すること。 講義には大きめの電卓を購入の上で望むこと。</p> <p>感染状況により、本学で定期試験の実施ができない可能性もあるが、その場合は柔軟に対応する予定である（定期試験 レポート対応に変更など）。</p>					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記』	滝澤ななみ	TAC出版	最新版		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	<p>「授業形態」：対面授業 「授業実施の手段」：対面授業（+Google classroomにはプリントPDFのみ掲載） 「質疑応答意見交換の方法」：対面授業 「コンテンツ配信日時」：対面授業後に配信予定 「受講したとみなす条件」： 対面授業でのレポート提出（若しくはGoogleの出席フォームでの送信）</p>					

授業の計画

1	資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表	簿記の意味・目的・種類、 簿記の基礎概念
2	収益・費用と損益計算書	簿記の基礎概念
3	取引と仕訳	取引、勘定と仕訳
4	試算表の作成(1)	決算と財務諸表(その1)
5	現預金	現金預金取引
6	商品売買	発送費、返品
7	売掛金・買掛金	売掛金と買掛金、クレジット売掛金
8	その他の債権・債務	未払金・未収入金・前払金・前受金など
9	手形・振出・受入・引受・取立・支払	受取手形・支払手形、電子記録債権・債務
10	固定資産	取得原価、減価償却
11	税金	消費税・法定福利費・預り金
12	収益と費用、 試算表の作成(2)	収益と費用、決算と財務諸表(その2)
13	元帳の締切りと財務諸表の作成	決算と財務諸表(その2)
14	総合問題(1)	まとめ(試算表を作成する問題をあつかいます。)
15	総合問題(2)	まとめ(精算表を作成する問題をあつかいます。)

授業科目名	現代政治学	担当教員名	水谷 利亮				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>【現代社会における政治・行政の役割・機能について学ぼう！】 わが国の政治・行政においては、政治の説明責任の欠如と機能不全や、官僚制の弊害、政官財学報の癒着などの問題が顕著になっている。この授業では、現代政治に焦点をあてながら、私たちの生活と密接に関連する政治・行政の機能・役割や課題、制度のあり方などに関する基本的な知識と視点を学生が学びながら、主権者・市民として政治や「政府」のあり方を批判的に考えるための素材と機会を提供することを目的とする。 授業では、民主政治のしくみと基本的な考え方を解説し、選挙制度、議会と政党、戦後の国際政治とグローバル化など日本と世界の今がわかるテーマをカバーした教科書を使って、講義形式を進める。補足資料を配布することがある。質問は、授業中に応答すること等で対応する。</p>
------	---

到達目標	<p>現代日本の政治や行政（活動）について理解を深める。 有権者、あるいは主権者・市民として、私たちはどのように政治に関わることができるのかを意識して政治のあり方を考える視点を獲得する。 「小さな政府」や新自由主義にもとづく政治を含め民主政治のあり方について、分析的・批判的に理解するための基本的な知識と視点を学ぶ。</p>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	キーワードの確認などを含む記述式の試験
	その他		

事前・事後学習	<p>日頃から新聞やニュースは毎日みしておくこと。 授業は基本的にテキストの章立てに沿って進めるので、予め次回の授業内容を必ず1回は読んで予習し、事後に該当する章を読み直して復習すること。</p>
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『政治学 第2版』	川出良枝・谷口将紀 編	東京大学出版会	2022年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『はじめて出会う政治学 第3版 - 構造改革の向こうに』	北山俊哉、真淵勝、 久米郁男	有斐閣	2010年

備考	<p>授業形態：対面授業。 コンテンツ配信：レジュメや関連資料などはgoogle classroom (gc) に前日までに掲示。 テキストは生協などで購入し、授業前後に読んで理解を深めること。 gcには、ecoメールに招待を送るので参加手続きをして入る。 なお、必要に応じて授業内容を周知して変更する場合もある。また、教科書は2022年に改訂され第2版として出版された新しい教科書を使う。</p>
----	---

授業の計画

1	授業ガイダンス	オリエンテーション
2	民主政治	第1章 民主政治の起源（第1節 古代の民主政治、第2節 近代の民主政治）
3	民主政治	第1章 民主政治の起源（第3節 自由主義と民主政治）、第2章 民主政治の変容（第1節 国民国家と民主政治）
4	民主政治	第2章 民主政治の変容（第2節 民主政治への挑戦、第3節 民主政治の再定義）
5	民主政治	第3章 福祉と政治
6	民主政治	第4章 民主政治のさまざまな仕組み
7	民主政治	第5章 選挙
8	民主政治	第6章 議会と政党
9	民主政治	第7章 政策過程と官僚・利益集団
10	民主政治	第8章 世論とマスメディア
11	民主政治	第8章 世論とマスメディア（補足）
12	民主政治	第9章 地方自治
13	民主政治	第10章 グローバル化
14	民主政治	第11章 民主政治の現在
15	まとめ	全体のまとめ

授業科目名	環境マネジメント	担当教員名	菅 正史				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>本講義では、環境政策の基本的な考え方と知識を身に付けることを目指します。(企業・団体の活動に伴う環境負荷を管理する「環境マネジメントシステム」と呼ばれる取組がありますが、それは本講義の主たる対象ではありません。)</p> <p>講義の前半では、環境経済学の基礎を学びます。経済学から見た環境問題の考え方、環境政策の代表的手段の理論的背景、環境の価値を評価する方法などを学びます。</p> <p>後半は、主として日本の環境政策の発展過程を通して、環境政策の考え方と課題を学びます。環境政策の事例を学ぶことで、公共政策的な考え方への理解を深めることを目指します。</p>						
到達目標	<p>環境経済学の基礎を理解する。 環境政策に関する基本的な用語・概念を説明できるようになる。 日本の環境政策の形成経緯を説明できるようになる。</p>						
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考				
	平常点	20	総合評点が70点未満となった場合に、70点を上限に考慮する。				
	小テスト	20					
	レポート						
	定期試験	80					
	その他						
事前・事後学習	主に事後学習に力を入れてください。配布資料やノート・メモを読み返して理解を定着させ、自分の言葉で内容を説明できるようにしてください。						
事前受講を推奨する科目	ミクロ経済学I						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『教科書は使用しない』						
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『環境政策論』	倉阪秀史	信山社	2015年			
	『入門環境経済学』	日引聡、有村俊秀	中公新書	2002年			
	『環境マネジメント：地球環境問題への対処』	山口光恒、岡敏弘	放送大学教育振興会	2006年			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 進捗により、スケジュールを変更する場合があります。 ミクロ経済学Iで教わった内容が出てきますが、復習しながら進めます。 						

授業の計画

1	イントロダクション	講義全体の進め方の解説
2	環境経済学の基礎	市場の失敗としての環境問題・交渉による解決
3	環境経済学の基礎	環境政策の手段（直接規制、環境税、排出権取引）
4	環境経済学の基礎	環境政策の手段（直接規制、環境税、排出権取引）
5	環境経済学の基礎	共有資源の管理
6	環境経済学の基礎	環境価値の評価
7	環境経済学の基礎	環境価値の評価
8	前半のまとめ	中間試験と前半の内容のまとめを行う。
9	日本の環境政策の歴史	公害問題の発生、公害対策の基本枠組みの確立
10	日本の環境政策の歴史	環境政策の基本原則（未然防止原則、予防原則、汚染者負担原則、計画的対応、等）
11	環境リスク	環境基準値の考え方
12	日本の環境政策の歴史	都市環境問題への対応、公害対策から環境政策への転換
13	環境アセスメント	手続き的手法による環境配慮・意思決定
14	地球環境問題	持続可能な開発概念・気候変動緩和に向けた国際枠組み
15	全体のまとめ	全体のまとめ

授業科目名	非営利組織論	担当教員名	川野 祐二				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>この授業は、利益を目的とせず、しかも行政ではない組織、すなわち非営利組織（NPO）について学ぶ。それは公益法人や共益法人までを視野に入れた幅広い意味のNPOである。講義を通じて受講者は、社会には多様な目的を持った集団が存在し、常に衝突と共存を繰り返していることを学ぶ。また、非営利セクターの全体像を把握し、社会全体の幸福とNPOの社会的使命について考察する。</p> <p>具体的には、NPOが活躍するに至った歴史的社会的背景を紹介し、近現代以降に起きた社会の問題と、その解決を目指して出現したNPOの役割について解説する。異なる公益的価値観が、時代や状況によって現れ、それゆえに社会正義の実現が困難であること、また企業や行政とは異なる社会サービスを担ってきた非営利組織の存在意義、そしてその組織構造と意思決定機構について理解する。</p>					
到達目標	<p>NPOが流行した背景を解説できる。NPOの全体像を理解する。公益性と非営利性について解説し、非営利組織の種類を説明できる。特定非営利活動法人、公益法人制度改革の背景について理解する。非営利組織の特徴や社会的役割について解説できる。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	100				
	その他		授業中の発言等を10点前後の加点対象とする場合がある。			
事前・事後学習	事前・事後学習は、授業ノートを熟読。到達目標に書かれた内容を解説できるように準備。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は使用しない』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『公益法人 - 隠された官の聖域』	北沢栄	岩波書店	2001年		
	『非営利組織論』	田尾雅夫・吉田忠彦	有斐閣	2009年		
備考	遠隔授業（オンディマンド）の際は、レポート等の評価にする場合がある。					

授業の計画

1	非営利組織入門	非営利組織とは何か。ボランティアとの関係。
2	NGOとNPO	用語の意味とその変遷。
3	日本の講と公益法人	近世までのNPO。歴史のなかの共益・公益組織。近代における公益活動。
4	NGOの登場	国際的非営利組織の活躍。
5	NGOへの注目	市民運動からNGOへ。
6	NPOの登場	特定非営利活動法人の誕生。
7	NPOの急増	非営利法人制度の改革と新しい公共。
8	非営利目的の組織を探す	社会で活躍する非営利組織。非営利セクターの全体像と概念整理。戦後市民活動の変遷。
9	資本主義と環境NPO	市場経済の調整機能。
10	資本主義と労働組合	古典的NPOの存在意義。
11	経済政策と福祉NPO	大きな政府と福祉。
12	エコロジー思想の背景	エコロジー思想のインパクト。環境運動と消費者運動。
13	エコロジー運動の実際	映像で見るDDT、PCBの危険性。
14	NPOの作り方	社会的起業。共益公益のための起業。
15	NPOの経営	ミッションと経営資源の確保。

授業科目名	行政学	担当教員名	水谷 利亮				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>【現代社会における行政と政治の役割・機能と公務員組織・官僚制の活動について学ぼう！】 わが国の行政・政治においては、行政・政治の機能不全や官僚制の弊害、政官財学報の癒着などの問題が顕著になっている。コロナウイルス感染症の拡大などは、中央政府・行政の機能不全や「格差社会」の問題などを先鋭にあぶり出している。この授業では、現代行政の活動に焦点をあてながら、私たちの生活と密接に関連する行政の機能・役割や課題、制度のあり方などに関する基本的な知識と視点を学生が学びながら、「政府」のあり方を批判的に考えるための素材と機会を提供することを目的とする。 授業では、日本の行政のしくみと動きにポイントをしばった行政学の教科書を使って講義形式で進める。レジュメは授業前に提示する。質問は授業中に応答すること等で対応する。</p>
------	---

到達目標	<p>行政（活動）や公務員・官僚制を取り巻く制度について理解を深める。 行政と政治の関係を含めた「政府」の役割・機能について基本的な知識と視点を獲得する。 「小さな政府」や「大きな政府」とポスト福祉国家のあり方について、分析的・批判的に理解するための基本的な知識と視点を学ぶ。</p>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	キーワードの確認などを含む記述式の試験
	その他		

事前・事後学習	<p>事前には、教科書の該当箇所を予習し、関連する直近の政治・行政、社会に関する新聞記事やニュースをしっかりと押さえて、各回のテーマの内容に関する具体的なイメージを持っておくこと。事後には、教科書の該当箇所を読み直して復習すること。</p>
---------	--

事前受講を推奨する科目	現代政治学	
-------------	-------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『行政学案内 第3版』	真淵勝	慈学社出版	2022年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『行政学 新版』	真淵勝	有斐閣	2020年

備考	<p>授業形態：対面授業。 コンテンツ配信：レジュメなどはgoogle classroom (gc) に時間前提示。 テキストは生協などで購入(前年度までと異なり教科書は新たに改訂された第3版を使用)して熟読し理解を深めること。 gcには、ecoメールに招待を送るので参加手続きをして入る。 なお、必要に応じて授業内容を周知して変更する場合もある。</p>
----	--

授業の計画

1	授業ガイダンス	オリエンテーション 行政(学)とは
2	日本の行政のしくみと動き	第1章 行政学説史 - アメリカを中心に
3	日本の行政のしくみと動き	第2章 内閣制度
4	日本の行政のしくみと動き	第3章 国家公務員
5	日本の行政のしくみと動き	第4章 中央省庁 - 制度、意思決定、役割
6	日本の行政のしくみと動き	第5章 官僚の役割
7	日本の行政のしくみと動き	第6章 予算編成 - 一般会計予算を中心に
8	日本の行政のしくみと動き	第7章 官民関係の見直し 小さな政府に向かって
9	日本の行政のしくみと動き	第8章 中央地方関係 分権改革を中心に
10	日本の行政のしくみと動き	第9章 地方財政 - 財政移転を中心に
11	日本の行政のしくみと動き	第10章 大都市行政 - 政令指定都市を中心に / 第11章 広域行政 - 市町村合併を中心に
12	日本の行政のしくみと動き	第12章 官僚制論
13	日本の行政のしくみと動き	第13章 行政責任 自律的責任論をめぐって
14	日本の行政のしくみと動き	第14章 日本の行政システム
15	日本の行政のしくみと動き	第15章 社会科学としての行政学 反証可能性と観察可能な含意

授業科目名	簿記原理（公・経）	担当教員名	田尻 敬昌				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>この授業では、簿記原理を踏まえて、その演習に焦点を当てて、授業を行う。簿記一巡の流れを意識し、その応用的な問題を解くことができるようになってほしい。</p> <p>また、日商簿記検定3級の過去問を利用して、その間違いやすいポイントを確認していく。</p> <p>さらに、株式会社の会計が3級で問われるようになり、3級レベルにとどまらず、一部2級レベルのないようも取り入れて学びを進める。</p>
------	--

到達目標	<p>「仕訳、転記、決算手続き」の流れがわかる。</p> <p>決算手続きの詳細を説明できる。</p> <p>精算表の応用問題を解くことができる。</p> <p>過去問間違いやすいポイントを指摘できる。</p> <p>会計情報の限界を簡単に説明できる。</p>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	10	簡単な計算仕訳および用語の説明ができる。
	小テスト	90	2回の小テストで計算問題を解くことができる。このような問題で90点の60%を満たすことが望まれる。
	レポート		
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	<p>しっかりと復習しないと授業についていくことができない。</p> <p>配布した資料を用いて復習するとともに、それが次の授業につながる事前学習となることを意識してほしい。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	簿記原理	
-------------	------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『なし』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『なし』			

備考	12ヶタ表示できる電卓が必要となる。テストにおいては、通信機能がついた機器は使用できないので注意してほしい。
----	--

授業の計画

1	ガイダンス	この授業でどのようなことを学ぶのがガイダンスするとともに、シラバスの確認を行う。
2	仕訳の復習	基本的な仕訳の復習を行う。
3	現金預金の問題演習	現金や当座預金の取引について問題演習を行う。
4	商品売買および手形の問題演習	商品売買だけでなく、手形の問題演習を行う。
5	その他債権債務の問題演習	その他債権債務の問題演習を行う。
6	固定資産の問題演習	固定資産の問題演習を行う。
7	いろいろな仕訳	今までに学ばなかった様々な仕訳を解いていく。
8	第1回の小テストと決算の基本的な流れ	前回までの内容について小テストを行う。さらに、試算表、決算整理仕訳や財務諸表の作成をしっかりと学ぶ。
9	精算表1	精算表の基本的な問題を解く。
10	精算表2	精算表の応用的な問題を解く。
11	試算表の応用問題	試算表の応用問題を学ぶ。
12	試算表の応用問題の演習	試算表の応用問題について問題演習を行う。
13	株式会社の会計	株式会社の会計について学ぶ。
14	第2回の小テスト	授業計画の後半について小テストを行う。
15	ふりかえり	今まで学んだ内容についてふりかえる。

授業科目名	公共哲学	担当教員名	桐原 隆弘				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>いま、「公共性」がさまざまな角度から注目されています。コロナウイルス・パンデミックへの対応（ロックダウンor緊急事態宣言）、ロシア・ウクライナ戦争への見方（国際協調or新冷戦）をはじめ、資源・エネルギー問題、生命倫理、若者の政治参加、企業の社会的責任、地方衰退の脱却、ネット社会のトラブルなどに至るまで、いずれも公共性にかかわる問題を含んでいます。</p> <p>おりしも2022年度から高校公民科「公共」がスタートし、現行「政治経済」「倫理」の基本事項を網羅した内容が扱われるようになりました。本講義では、高校「公共」のうち倫理学や政治哲学に関連する内容を念頭に置きながら、大学の講義にふさわしくやや詳しい解説を行い、また 地域課題への取り組みの一環として、下関（藩政時代有数の交易都市にして、近代の要塞都市）の歴史に注目しながら、その観点から日本の近世・近代の政治思想を概観することを試みます。</p>
------	--

到達目標	「公共性」の基本概念とこれに関連する思想史の理解に基づいて、社会の諸問題を思想の観点から考察できるようにする 地域の歴史と思想との関連を学び、地域づくりの糧とする
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	40	レスポンス・ペーパー
	小テスト		
	レポート	60	
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	教科書は用いず、資料をクラスルームで共有する
----	------------------------

授業の計画

1	「公共性」とは何か	政治思想史での定義と現代の用法
2	思想の源流	ギリシアの徳倫理 儒学 仏教 キリスト教 イスラム教
3	近代思想の成立	宗教改革と科学革命
4	人間の尊厳と幸福	義務論・功利主義・自由至上主義・共同体主義
5	日本思想史概観	仏教普及史 儒学と国学 西洋思想受容
6	現代思想	官僚制批判の系譜を中心に
7	資源・エネルギー問題と環境問題	持続可能な社会をめぐる思想
8	生命倫理の諸問題	優生思想の顛末を中心に
9	情報社会の諸問題	知的財産権を中心に
10	民主社会の基本原則	社会契約論 法の支配
11	公共性と対話的理性	アーレント、ハーバーマス、ロールズ、セン
12	地域の歴史と思想	長州藩政改革思想としての徂徠学
13	地域の歴史と思想	近世赤間関における保守主義と一藩絶対主義
14	地域の歴史と思想	航海遠略策～尊王攘夷～尊王倒幕への藩論転換と明治維新
15	まとめ	全体の復習とディスカッション

授業科目名	コミュニケーション心理学	担当教員名	渡邊 尚孝				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	人と人のコミュニケーションには、言語的なものと非言語的なものがある。また、伝えたいことが相手に正確に伝わる保証はなく、相互の多様な自己表現を経ることが必要である。本授業では、自身のコミュニケーション傾向を把握し、多様な表現スキルや「聴く」スキル及び感情コントロールについて学び、建設的な議論ができるようになることを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のコミュニケーション傾向を把握することができる。 ・非合理的な思い込みにとらわれず、感情コントロールができる。 ・自分らしい効果的な表現スキルを高め、建設的な議論ができる。 						
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考				
	平常点	50%	意見交換等による授業貢献、報告・連絡・相談等				
	小テスト	10%					
	レポート						
	定期試験	40%					
	その他						
事前・事後学習	事前学習では、テキストの該当箇所を事前に読み、課題内容を把握し、意見表明できる準備をしておくこと。授業では建設的な意見交換を重視します。事後学習では、各自が意見交換等から得られた視点等についてまとめ、質問等をGoogleクラスルームのコメント欄に公開投稿すること。自分の文章は良く吟味すること。平常点に含まれる活動です。						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『「自分の気持ちをきちんと伝える」技術 人間関係がラクになる自己カウンセリングのすすめ』』	平木典子 著	PHP	2007年			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『「心理学の基礎 四訂版」』	今田 寛・宮田 洋・賀集 寛 共編	培風館	2016年			
備考	【この授業は、臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が行う授業です。】						

授業の計画

1	対人関係におけるコミュニケーション	授業概要説明。対人コミュニケーションにおける心の動きや様々な表現について理解する。
2	誤解やズレを前提とした交流	自らのコミュニケーションニーズを把握し、誤解やズレを補う交流プロセスを理解する。
3	全てを表現することの限界を知る。	自らのコミュニケーションを振り返る。
4	相手を理解する	相手の準拠枠にそって理解することの大切さを知る。
5	コミュニケーション傾向を理解する(1)	物事の認知傾向を知る。
6	コミュニケーション傾向を理解する(2)	自身の言動を振り返る。
7	コミュニケーション傾向を理解する(3)	自身の優先事項を知る。
8	非主張的なコミュニケーション	不安の中身を知る。
9	攻撃的なコミュニケーション	自分の欲求を知る。
10	自分の感情を自覚する	自分の気持ちを把握し、感情は自然なものとする。
11	自分自身をオープンにする	アサーションとABCD理論について学ぶ。
12	相手の話に耳を傾ける(1)	アクティブリスニングを実践する。
13	相手の話に耳を傾ける(2)	感情をとらえる姿勢を学ぶ。
14	非言語のコミュニケーション	非言語コミュニケーションの種類を知り、意識的に活用する。
15	問題解決のための議論	DESC法を意識して討論する。

授業科目名	公共マネジメント論	担当教員名	川野 祐二				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>本講義における公共マネジメントとは、行政の範疇に留まるものではなく、「官」「産」「民」の各部門が、公共サービスの担い手であるとの認識に立っている。そのうえで、地域や社会に存在する経営資源を有効に活用し、効果的な公共サービスを展開する方法について考察する。</p> <p>公共とは何かという点について議論をしたうえで、「行政改革」と「ソーシャルキャピタル」「新しい公共」の発想に至る経緯を理解し、行政や非営利セクターにマネジメントを導入することについて検討を加える。「全体主義・民主主義」「官僚制」「利益集団」による力関係を踏まえた「公共プロジェクト」の実践について考える。篤志家たちによる民間フィランソピーや企業の社会貢献などの紹介も交えながら、公共空間が行政・企業・非営利組織という三つのセクターによって支えられていることを論ずる。</p> <p>受講者は「公共の場」の成り立ちと、そこで起きうる問題を知って、公共プロジェクトに挑むための経営環境の把握と、問題解決のためのマネジメント思考を身につける。</p>						
到達目標	<p>「政府・企業・非営利組織」が「公共の場」において、どのような役割を果たしているのかについて理解する。「行政改革」と「ソーシャルキャピタル」「新しい公共」の経緯について理解する。「官僚制と逆機能」について理解し、「利益集団」の相互作用と影響力について理解する。</p>						
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考				
	平常点						
	小テスト						
	レポート						
	定期試験	100					
	その他		授業中の発言等を10～20点前後の加点対象とする場合がある。				
事前・事後学習	事前・事後学習は、授業ノートを熟読。到達目標に書かれた内容を解説できるように準備。						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『使用予定はない』						
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『新しい公共を担う人びと』	奥野信宏・栗田卓也	岩波書店	2010年			
	『公共経営論』	田尾雅夫	木鐸社	2010年			
備考	コロナ禍で対面授業が不可能なときはオンデマンド授業を行い、Googleクラスルームで配信のうえ、評価方法はレポート課題にする予定です。						

授業の計画

1	公共マネジメント論への招待	公共とマネジメントについて
2	公共の定義	公益、共益、私益の検討
3	公共概念と全体主義	全体主義の性格と否定
4	公共サービス	公共マネジメントと公共マネジャーの役割
5	三つのセクター	公共プロジェクトを率いるのは誰か
6	公共のリーダー	リーダーとフォロワー、プライベートシチズン
7	公的市民	パブリックシチズンと公共プロジェクトの困難
8	行政改革	民営化と新しい公共
9	日本の行革	土光臨調から聖域なき改革
10	行革批判	行革のメリットとデメリット
11	ソーシャルキャピタル	新しい公共への道のり
12	民主制	トックヴィル、アーレント、ハーバーマス
13	官僚制	ウェーバー支配の類型
14	官僚制の逆機能	マートンとパーキンソン
15	利益集団	圧力団体と業界団体

授業科目名	都市計画論	担当教員名	菅 正史				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	3年生

授業概要	<p>それぞれの方が勝手に建物を建てたり、いきあたりばつりに道路などの整備が行われる（無計画）と、様々な問題が発生します。加えて都市づくりでは、一度市場の失敗が生じてしまうと、その修正には膨大な時間とお金がかかります。そのため、日本を含む世界各国で、あらかじめ好ましい都市の将来像を描く「都市計画」が作られています。人口が急速に増加していた時代の都市計画は、増加する人口を収容するための新市街地形成が課題であったため、行政が中心となって運営してきました。しかし、既成市街地の維持・改善が課題となっている現代の都市計画では、都市で生活・事業等を営む市民・企業等との関係を考えることが不可欠になっています。</p> <p>本講義は、日本の都市計画の発展史を通じて、現在の都市・都市計画がどのような経緯で形成されてきたかを学びます。あわせて、都市計画を通じて、公共政策的な考え方への理解を深めることを目指します。</p>
------	---

到達目標	日本の都市計画の形成過程と仕組みを説明できるようになる。 公共政策について、行政・市民・民間企業等の関係を含めて、考えることができるようになる。
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	20	総合評点が70点未満となった場合に、70点を上限に考慮する。
	小テスト	20	
	レポート		
	定期試験	80	
	その他		

事前・事後学習	主に事後学習に力を入れてください。配布資料やノート・メモを読み返して理解を定着させ、自分の言葉で内容を説明できるようにしてください。
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『入門都市計画-都市の機能とまちづくりの考え方』	谷口守	森北出版	2014
	『都市計画教科書』	都市計画教育研究会	彰国社	2001
	『都市計画はどう変わるか-マーケットとコミュニティの葛藤を超えて』	小林重敬	学芸出版社	2008

備考	・進捗により、スケジュールを変更することがある。
----	--------------------------

授業の計画		
1	イントロダクション	講義全体の流れを解説する。
2	理想都市論	産業革命後の都市環境問題をきっかけとする「理想的な都市」をめぐる議論
3	日本の都市計画の起こり	東京市区改正・旧都市計画法の成立
4	土地利用規制・「面」の整備	日本の土地利用規制の仕組みと課題。 都市の面的整備の仕組み（土地区画整理事業・都市再開発事業。）
5	都市の成長管理	新都市計画法の成立・日本の区域区分制度とその課題
6	海外の都市計画	英国・ドイツ・米国の都市計画制度の概要、日本との比較
7	中間のまとめ	中間試験と前半の内容のまとめを行う。
8	都市計画への市民参加	近代都市計画批判 「反対運動」から主体的な市民参加への発展
9	都市計画への市民参加	都市計画への市民参加の仕組みの導入 地区計画制度、まちづくり条例、都市計画マスタープラン
10	緩和型都市計画	規制緩和を通じた民間事業者の開発の誘導
11	民間活力・都市再生	民間事業者の創意工夫を活用する都市再生政策と、その課題
12	中心市街地問題	中心商店街問題の歴史
13	中心市街地問題	まちづくり三法改正、中心市街地活性化の取り組み
14	人口減少問題	人口減少の影響と対策
15	全体のまとめ	全体のまとめを行う。